

第2回「あと数マイル・プロジェクト」推進検討会議議事概要

- 1 日 時：令和6年11月19日（火）10時00分～11時50分
- 2 会 場：埼玉教育会館 303会議室
- 3 出席委員：久保田尚、金山洋一、伊藤香織、生田美樹（順不同、敬称略）
- 4 配布資料：次第、委員名簿、資料1、資料2
- 5 内 容

（1）開会

（2）挨拶

（3）会議の公開

- ・率直な意見交換を行うため、また、発言によっては特定の関係者の利害に影響がある内容を含むと考えられるとの意見を踏まえ、意見交換は非公開の扱いとすることとした第1回会議と同様の取り扱いとすることを決定した。

（4）議題（委員からの主な意見）

ア 東京12号線、東京8号線共通の意見

（ア）まちづくりに係る意見

- ・自治体によって鉄道延伸に対する熱意に差が見られる。ミクロで見たときに人口が減っている地域もあるという状況や主体的に取り組む必要性を自治体に伝える必要があるのではないか。
- ・流山市は成功事例だと思うが、市全体の人口は増加傾向であるものの、一部地域では減っている。これが単なる人口減少なのか、それ以上に新駅周辺の開発により市内間で人口が移動しているのかを精査し、既成市街地への影響も含めて新駅の開発について各自治体が考えるべき。
- ・まちづくりの視点で、交通がどのような影響を与えるのかを検討すべき。
- ・駅にはまちの象徴性や中心であることが求められるが、地下駅の場合、それがなかなか難しい。今後はそういう点も考慮に入れていくとよい。
- ・新しい市街地ができたとき、既成市街地の人口減少など、ストロー効果が想定されなくもないが、居住者は市外からも集まってくる。最終的には、市全体で住環境を良くし、持続可能なまちづくりを進めることを考えるとよい。
- ・人口が減少していく可能性のあるところはコンパクト化が必要。メリハリをつけた都市構造にし、移転先の選択肢を与えることが大きな方向性の一つではないか。
- ・鉄道ができるからまちづくりを考えるのではない。目指すまちづくりがあって、そのために鉄道を延伸するという意識が必要。

(イ) 県の調査・取組に関する意見

- ・ルートの精査に当たっては、車両基地の位置や速達性を損なわない曲線半径の設定など、より具体的かつ合理的な計画になるよう留意すること。
- ・一般的に、需要予測の算定と比較すると、コストの算定は精度が低いことが多い。土木や設備の計画について、例えば地盤によっては高架橋主体でも地下より事業費が高くなる可能性や、地下の排水ポンプの設置場所など、技術的な事項を再検証しながら進めていくべき。
- ・交通ネットワークと土地利用を同時に考慮できる新たな解析モデル（CUEモデル）を用いた分析では、延伸による企業立地や住宅立地などが予測でき、まちづくりすべき地域の選定が可能。また、道路ユーザーの速達性向上の効果も予測できる。こういったことも参考にするのがよい。
- ・経営主体はどこかということも大事である。営業面についてもさらに検討した方がよい。

(ウ) その他の意見

- ・延伸路線のリダンダンシーについては、延伸路線沿線の地域の震度だけでなく、首都圏全体の震度分布と比較して評価する必要がある。

イ 東京12号線に関する意見

- ・混雑問題ばかりに着目せず、通勤、通学目的の利用から視点を変えて、沿線の人が日中や土日に利用する上での利便性やまちづくりを意識し、追求していくとよい。
- ・観光施設は一度訪れると間が空くが、エミテラスのような商業施設は毎週来てもらえる可能性がある。東所沢駅からエミテラスまでのアクセスの利便性を向上させると需要増加につながるのではないか。
- ・都市計画を見直し、東所沢に東京から通勤できるようなオフィスなどを作れば、都民も逆方向で通勤でき、県としてもメリットがある。埼玉都民のように、県内から出ていく一方だけではない、という状況ができるとよい。

ウ 東京8号線に関する意見

- ・イオンレイクタウンは、駅から近く、歩いていける素晴らしい施設。東京と一本で繋がるというのは非常に効果が大きいため、このような施設が東京と直結することをもっと評価してもよい。
- ・インバウンドは、買い物よりも体験、ツーリズムという時代が変わってきているので、例えば「越谷いちごタウン」や「キックマンもの知りしょうゆ館」などは非常にニーズがあるのではないか。
- ・インバウンドを獲得するためには、土日も営業して英語で解説をしたり、英語で動画を作ったりするとよい。また、どの地域でも歴史や文化を英語で説明できる人が求められている。

- (6) その他（事務局からの連絡）
- (7) 閉会